



メコノプシス・シンプリキフォリア
(subsp. シンプリキフォリア)

幸せの国・ブータンの

メリーポピーたち

6

花を求めてブータン紀行

松永秀和

ヒマラヤでモンsoon期の山歩きに欠かせないのが、雨傘とゴム長靴だ。雨は垂直に降るので、傘一本あればほかの雨具はいらない。ヒマラヤの石は花崗岩かこうがんで濡れると滑りやすく、ビブラム底が深い登山靴では石との接触面積が少なくスリップしやすい。そのうえ、山道はすぐ水であふれ溪流となるので、くるぶしまでしかない靴では中に水が入ってしまう。日本からゴム長靴を持って行ったが、底が薄いため、石英質の鋭い石の角が当たると穴が開いてしまった。スノーマントレックを終えティンブーに戻った折、新しい靴を求めて3軒ほど店を回ったが、店主はいずれも女性であった。これは財産を女性に譲るといふ母系制の名残のようだ。

ティンブーで買ったインド製のゴム長靴をブータンの最西端のハ県のトレッキングに持って行く。赤粘土質の山道はつるつるでよく滑るが、ゴム長靴はピタッと吸い付いて滑らず、歩きやすい。渡渉のときも水が入らない。岩の道でも衝撃を受け止めてくれ、道の状況をじかに伝えてくれる。私はこの靴を「現地妻」と呼んで、重用した。

ブータン人ならだれでも知っている日本人は、ブータンの農業改革に貢献し、その功で貴族の称号を与えられた故西岡京治氏だが、ガイドは彼に現地妻がいたという。真偽は定かでないが、もしいたとしたら、西岡氏に有益な現地情報をもたらしてくれたであろう。その西岡氏に『ブータンの花』という写真集（中尾佐助共著、北海道大学出版会）がある。その中のメコノプシス・シンプリキフォリアに魅せられたのも、ブータントレッキングの一因となった。